

HUG (避難所運営ゲーム) で多様性センスを磨く！

今年度、防災意識の高まりでしょうか、女性の意識の向上でしょうか、一昨年、友人とアレンジしたHUG（避難所運営ゲーム）をさせていただく機会が増えました。いろいろな方の体験話を取り入れて、回を重ねるごとにパワーアップしています。概要をご案内します。

☆HUGって？

H・・・避難所
U・・・運営
G・・・ゲーム

の略です。静岡県の危機管理課が考案しました。避難所となる体育館に続々と避難してくる人々、次々に湧いてくる問題、それをカードを使って、ワークショップ形式で解決していきます。



☆多様性の視点を！

HUGのセットの中にはマニュアルが入っています。実は、そのマニュアル通りに進行するオリジナルのHUGに参加したことがあります。そのふりかえりから、参加者としての気持ちや必要だと考える情報を盛り込んだアレンジを考案しました。

多様な人々、男性だけでなく女性（単身、妊産婦、乳幼児を抱えるママなど）、高齢者、子ども、病気・ケガ、言語、障害などに配慮することを参加者のみなさんと考えていくプログラムになったのです。

東日本大震災で様々な報告書が出され、様々な取り組みが行われています。身近な人も被災地へ仕事として、ボランティアとして行っています。たくさんの情報を整理し、盛り込んで、効果的に伝わるようにしました。

その後も進化をつづけています。

☆普段の生活が大切

非常時には緊張が続き、不安定な精神状態となります。災害弱者と言われる方々の心身の負担が大きく、関連死に至ることもあるとか。

直接の災害から守る事ができた命が、その後失われるというのは悲しいことです。

多様な人への配慮は、イザというときにだけ出来るものではなく、普段の生活からにじみ出てくるものではないかと思えます。

普段の生活で、少しでも思い出していただけるワークショップになれば幸いです。

☆災害への準備はモノと心があります。心の準備は身につくまで時間がかかり、家族分準備すればよい、というものでもありません。心の負担を減らして、整えることは被災から立ちあがるためにも必要になりますね。